

2025 年度 大垣女子短期大学 出前講座

分 野 : デザイン、商品開発、デザインマーケティング、デザインプロセス、デザイン心理

テーマ : 蝶々とカマキリ、デザインとココロ、そして愛と恋

講 師 : デザイン美術学科 教授 日原 広一

◆概要 民間企業(ソニー、G E、サントリー)から教育・研究機関(宮城大学、金沢美大、大垣女短)を長年にわたって渡り歩き、産業系デザインから社会系デザイン、実践から理論、等幅広く養ってきたデザインの知見と技術を下敷きにして、講師が結論づけたのが「デザインは愛である」です。その成果を、スローガン「デザインは一般教養、あらゆる業種にデザインの知見を！」とともに披露させていただぐ本講義では、とくにデザインの意義とは報酬性(蝶々性)にあることを解説していきます。またデザインが生活科学であることを実感してもらうため、簡単ながらも「えっ！」と驚きの体験ができるデザインワークも開設します。

◆内容 昆虫には、昼行性で光や匂い等の「知覚」に敏感な報酬志向と呼ばれる蝶々やミツバチ等が存在する一方、夜行性で待ち伏せの行動得意とする捕獲志向と呼称したいゴキブリやカマキリ、蜘蛛たちが存在します。本講義では、知覚創作体系(芸術)の一つの分野であるデザインを、この報酬志向と捕獲志向という二つの観点から紐解くこれまでになかった「シン・デザイン論」が展開されます。

経済社会は産業革命以降、消費者の需要(欲求)を如何にして効果的に獲得するかを目的に、様々に変遷してきました。企業(量産化)志向、消費者(多品種化)志向、顧客(無形化)志向等々……しかしその底流を共通していたのは「捕獲志向」だったといえるのです。畢竟今や、それも限界にきてています。換わって新たなマーケティングにおける価値主導型が注目されているのは、それが消費者の需要を獲得することではなく、消費者のココロの中に、魅力ある価値そのものを生成させてあげることだからなのです。

本講義では、この困難なフレームワークを可能にしてくれるのが、報酬志向(蝶々性)でありその重要な役割を担っているのが「知覚」創作体系=デザインであることを解説していきます。

◆出講可能な時間帯

- ・前期（4月～7月）：金曜日（午後）
- ・後期（10月～1月）：月曜日（午前・午後）

◆講師情報

- (1) 専門分野 : デザイン、商品開発、デザインマーケティング、デザインプロセス、デザイン心理
- (2) 主な担当科目 : デザイン関連全般
- (3) 一言メッセージ : デザインは一般教養、あらゆる業種にデザインの知見を！